2015年11月4日付しんぶん赤旗

新しい大阪へ 11・22W選

さらば！橋下「維新」政治

みんなで議論して前に進む

落語家

笑福亭　竹林さん

2人の子育てと、子ども会活動を20年続け、子どもを一番わかるおとなだと自負しています。一番あかんのは力で制圧・コントロールすること。合意を求める行為が大事です。

体罰がなぜ起きるか考えたら、子どもは弱くおとなは強いという力関係があります。これがアドバンテージになると勘違いすると、教育の目的が力関係を形成・維持することになる。体罰がいい悪いでなく、できるからする。同格で接してもおとなと子どもの序列は自然にできます。ことさら力関係を築くのは絶対いやです。

橋下徹さん（大阪市長・おおさか維新の会代表）が、府知事選挙に出る前、テレビで「子どもは、しょせん恐怖心でしかコントロールできない」と言ったとき、これはあかんと思いました。

自分以外を支配

知事・市長になってからの橋下さんをみると、コントロールしたいのは子どもだけじゃない、自分以外の他人すべてだと思います。

「反対」といえば口汚くののしって、個人の尊厳まで傷つける。疑問を呈するだけで「抵抗勢力」と決めつける。恐怖政治です。

少数派の意見を抹殺する政治は、決めるのは早いかもしれない。でも実は変わらない。下の意見を聞かない組織は必ず硬直します。

みんながアイデアを出し合える状況が、いま大阪にいるのではないでしょうか。府知事・大阪市長ダブル選挙は、他人の意見を聞かない政治を続けるのか、みんなでわあわあ議論して前へ進める政治に変えるのか、が最大のポイントだと思います。

候補者の「良さ」

この4年間で一番うれしかった瞬間は、大阪市の廃止・解体の是非を問う住民投票で勝ったときです。それと別に、一番かーっと熱くなった瞬間があります。4年前の大阪市長選で共産党が候補者を降ろしたと知ったときです。「共産党、本気や。維新に勝てるかもしれん」と。

柳本顕（あきら）さん（市長候補）は、よくこんなときにこんな人がいたなと。物が言いやすくて上手にまとめていってくれる。決めるときは強いリーダーシップを発揮する、そういう芯の強さも含めてです。

栗原貴子さん（府知事候補）は落語家の目からみたとき、二つのすごくいいところがあります。一つは、かわいげがある。結構、松井一郎知事にきついこと言ってますよ。でも、ふてぶてしく見えない。もう一つは、自然と言葉に情がこもる。どちらも、持って生まれた才能みたいなものです。

聞き手・写真　菅沼伸彦